

研究所便り

しまんと

発行：四万十町教育研究所

第118号（通し番号）

令和8年7月16日 発行

早いもので、1学期も残り少なくなってきました。教職員の皆様におかれましては、学期末の作業に追われ、あわただしい毎日をお過ごしのことと思います。1学期も研究員の研究協力や不登校、あるいはその傾向の児童生徒の支援会や情報共有会等のご案内をありがとうございました。

さて、2026年1月に2024年度の高知市の中学校不登校が最多との報道がありました。千人あたりで、全国が67.9人、高知県で62.4人、高知市が96.6人と過去最多となったとのことでした。四万十町においては、71.4人で、高知市同様、全国を上回る状況でした。そういったことから、各市町村においてはその支援の充実を図っています。本町では教育支援センターの3教室、また、学校での別室指導、リモート授業で多様な支援を行っているところです。また、様々な機関とつなぐスクールソーシャルワーカーの配置で、学校から早期に相談をいただき、未然防止へとつなげています。そして、学校だけでは支援が届かない家庭については、四万十町の公的機関なども利用しています。不登校のきっかけや要因が多岐にわたり、なかなかうまくいかないこともあります。教育研究所、教育支援センター、SSWは粘り強く頑張っていきたいと思います。

四万十町教育支援センター

現在の教育支援センターの通室生は中学生8名、小学生2人です。定期的には通室できなくても、給食には学校に行ったり、自分のペースで生活をしています。先日は心の教育センターでのオンラインサポートの体験がありました。これは学習、交流をICTでサポートする取り組みです。

交流・・・おしゃべりOK クイズやる？みんなで集まっておしゃべりしよう。

個人・・・自分で何をやるか決めてやってみよう。学習や動画の視聴

タイピングもいいね。決められない時はスタッフが相談にのるよ

フリー・・・気の向くままに過ごしてOK。何をしてもいいし、何もしなくてもいい。（でもつながっている）

※メタバース空間では顔出ししなくてもOK！チャットでの会話でも大丈夫です。

（高知県教育委員会 こころの教育センターより）

オンラインサポートの体験



幡多青少年の家のわくわくチャレンジに参加



中土佐町小草グランドゴルフ場に遠足

皆様におかれましては夏休み、閉庁期間には暑さに気を付けてゆっくりお休みください。1学期も情報共有等、ご協力ありがとうございました。2学期もよろしくお願いします。

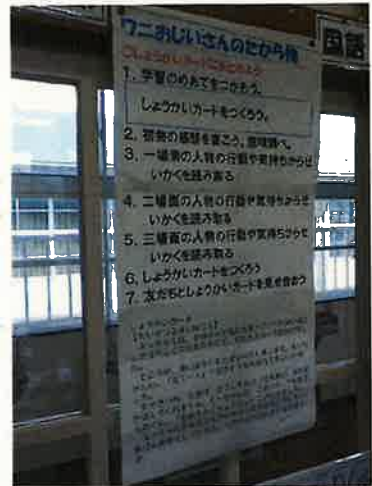
四万十町教育研究所 所長 野村 泰子

令和の授業 DX

三原村立三原小学校 3 年生 国語「ワニのおじいさんの宝物」

令和の授業 DX の公開授業が三原小学校で行われ、その視察に行ってきました。

- ①単元の学習の流れを児童と共有をすること
- ②「学習者」が主語になる学びをいかに作り出すかということ
- ③学習の記録を残し、今の学習と結びつけること



今や当たり前になってきていることではありますが、こういったことを大切にしながら、デジタル学習基盤を生かした授業づくりをする大切さを改めて感じました。

また、放送大学 小林 祐紀 准教授の講演会では、以下のような学びがありました。

1. 明日から実践できる「授業づくりの 7 つのポイント」

自律的な学びを実現するために、以下の視点で授業をアップデートすることが大切だと仰っていました。

授業情報の共有：学習のゴールや計画を子どもと共有し、「教師だけが知っている」状況をなくす。

単元の価値付け：その単元を学ぶ意味や教師の願いを明確に伝える。

個別最適な時間の確保：15～20 分程度、自分のペースで取り組む時間を設ける。

学習環境の整備：子どもが勝手に学び始められる手立て（リソースの提示等）を用意する。

自己選択・自己決定：学び方や発表方法などを子ども自身に選ばせる。

意味のある協働：必要な時に助け合える、分からないと言い合える人間関係を築く。

振り返りの時間：内容だけでなく「自分の学び方」を振り返り、自己調整力を高める。

2. わたしたち教師に求められるパラダイムシフト

「教師がすべてを決める」授業から、「子どもが主導する学び」をデザインし、伴走する役割へと転換が求められているそうです。形だけの ICT 活用ではなく、二項対立（デジタルか紙か、教師中心か生徒中心か）を超え、子どもにとって最適な学びは何かを問い続ける「教師のエージェンシー」を発揮することが大切であるとのことでした。

これまでの様々な学びと影野小での実践を踏まえ、7 月 6 日（月）に google クラスルームを活用した学習者主体の授業実践について、ICT 担当者会のオンライン学習会にてお話をさせていただきました。

教育研究所では、先進校視察で得た知見や論文、書籍、大学教授からの学びを生かし、デジタル学習基盤を活用した授業づくりのサポートや授業のお手伝い等ができます。ぜひお気軽にご依頼していただけたいと思います。（西澤：内線 3312）

四万十町教育研究所 研究員 西澤